

さよなら電鉄

昭和8年8月に開通し、それから66年間、多くの人々や貨物を運び続けた新潟交通の電車線が、この4月4日(日)をもって廃線となりました。当日は、最後の電車に乗っておこうと多くの方が利用され、到着する電車、発車する電車はどれも満員に近い状態でした。

をして楽しかったこと、ふざけて叱られたことなどを作文にして読み上げました。野沢明日賀君(小6)からは花束が手渡されました。



月潟駅は、各地から大勢の鉄道ファンが集まり一種独特の雰囲気になっていました。そんな中で、先月まで曲駅から毎日通学に利用していた小学新6〜2年生の皆さん全員が、電車の運転手さんに対して「お礼の作文」を書いて送りました。代表して6年生の北澤舞さんが、「電鉄のみなさん、運転手さん、今日まで私達を事故なく安全に乗せて下さってありがとうございます」と感謝の言葉を述べ、運転手さんといろんな話



▲手を振り見送る小学生



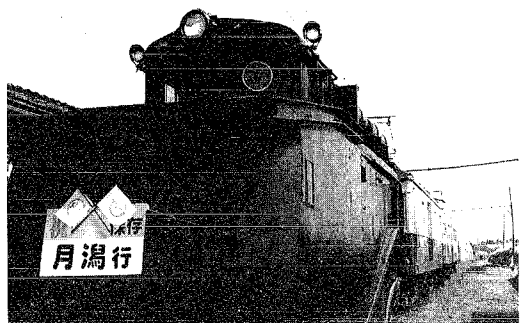
さよなら
ありがとう
そしてようこそ

廃線となった新潟交通電鉄の車両を保存し、沿線住民の皆さんの思い出が少しでも長く残ればとの気持ちで、新潟交通株式会社が無償譲与をお願いしたところ、客車1両、貨車1両、ラッセル車1両を貰い受けることとなりました。

戴いた車両は、正式には電動客車「モハ11号」、電動貨車「モワ51号」、雪掻車「キ116号」です。
保存場所は、旧月潟駅構内です。

尚、一般公開の時以外は、車両には施錠されています。

4月5日(日)に行われた引き渡し式では、午前10時40分、関係者や鉄道ファン、報道関係者の出迎えの中、「キ116号」を先頭に3両編成の列車が静かに姿を現わし、ホーム間のゴールテープを切って構内に到着しました。
ホームでは、新潟交通株式会社社長より村長に電車の制



▲保存される車両
動弁ハンドルが手渡され、全国的にも貴重な車両が月潟村で保存されることになりました。

月潟駅の地元である七番町の皆さんが、惜別の意を込めて、最終列車に対してお別れ会を開催しました。

高校3年間新潟市へ通学に利用した関根翼さん(大学生)が、お別れのあいさつを、電鉄開通の年に生まれた関本レイさん(66才)等から花束が贈られました。

新しい

保育園を紹介します



▲正面の三角がシンボル(※この施設は厚生年金、国民年金積立金還元融資を受けて建設したものです。)

昨年、国の緊急経済対策により前倒し施工となり、工事を進めてまいりました月潟保育園が先月完成し、同月15日より新しい園舎で保育を開始しました。

新しい園舎は、木造平屋建てで、1,500㎡余りで木のぬくもり、木の香りを生かし、自然採光をふんだんに取り入れたすばらしい施設となりました。

中でも、園児の衛生管理をするため、トイレはもちろんのこと、玄関や教室にも消毒器を設置し、手を数秒入れるだけできれいに殺菌できます。玄関の段差も小さく、靴のぬぎはきも簡単にできるようなっています。

また、0歳児から2歳児までの部屋には床暖房が設備され、冷暖房完備になっています。

園舎内部は、木造という利点を生かし、柱や備え付け家具は面を取り、凹凸をなくし、安全面にも気をくばっています。トイレも、それぞれ園児に合った大きさのものを設置

園児の教室は、

<p>〔5歳児〕</p>	<p>〔3歳児〕</p>	<p>〔0歳児〕</p>
<p>〔1歳児〕</p>	<p>〔4歳児〕</p>	<p>〔2歳児〕</p>
<p>〔1歳児〕</p>	<p>〔4歳児〕</p>	
<p>〔1歳児〕</p>		

し、年長児のトイレにはドアを付け、右側から入り、左側から出るようになっていきます。そしてもう一点、地域の皆さんの子育てに対する相談等を行う「子育て支援室」を設置し、より身近な保育をめざしています。
外構工事はまだ完了していませんが、6月頃には完工し、新しい園庭で運動会を開催する予定です。



▲ホールも明るく、広く



▲部屋も家具もスッキリと